

3.11 私(たち)に できることを考える会



INTEGRITY OF CULTURE

霞が関から文化
カプロジェクトとは
文化がもたらす豊
かさなどを霞が関
から発信し、社会
を元気にしていくことを目的とする、文化庁が推進しているプロジェクトです。

文化力
INTEGRITY OF CULTURE
霞が関から文化
カプロジェクトとは
文化がもたらす豊
かさなどを霞が関
から発信し、社会
を元気にしていくことを目的とする、文化庁が推進しているプロジェクトです。

2012年3月

9日(金) 10日(土)

上映会

開会挨拶

「3.11私(たち)にできることを考える会」 桃井隆氏

プレコンサート

清水理恵氏 フルート独奏

[曲目] テレマン:ファンタジー 第1番 イ長調
イペール:小品ノふるさと



河瀬直美氏



清水理恵氏

ビデオメッセージ

映画監督 河瀬直美氏

映画 『3.11 A Sense of Home Films』



世界中のさまざまな映画監督(21名)に、3月11日に発生した東日本大震災にちなみ3分11秒の短編映像を紡いで貰うプロジェクト『3.11 A Sense of Home Films』日本をはじめ、スペイン、タイ、中国、シンガポール、メキシコ、アメリカなど世界12か国の映画監督が参加。河瀬直美監督の呼びかけにより、2011年5月18日、第64回カンヌ国際映画祭にて発表され、その後、東北地方の被災地、日本全国、海外での上映がおこなわれています。(参加監督及び主な作品は裏面)

交流会

交流会は、『3.11 A Sense of Home Films』の映画監督の方、主催者、参加者による気軽な交流場です。軽い食事とワインを楽しめます。(参加費別)

[3/9] 18:30~20:15

開会 18:30
上映開始 19:00
交流会 20:30~21:30

[3/10] 14:30~16:15

開会 14:30
上映開始 15:00
交流会 16:30~17:30

会場

霞が関ナレッジスクエア

参加費

- ①上映会のみ KK²メンバー/一般 2,000円
- ②上映会+交流会 KK²メンバー/一般 4,000円

[東日本大震災義援プログラム]

霞が関ナレッジスクエアでは、大震災発生後、2012年3月まで、主催するプログラムを「東日本大震災義援プログラム」と名付け、プログラム参加費の中からお一人様につき500円を岩手県陸前高田市に直接、義援金としてお送りいたします。

[主催] 3.11私(たち)にできることを考える会

[共催] 霞が関ナレッジスクエア

3.11私(たち)に
できることを考える会

今回、「3.11私(たち)にできることを考える会」を立ち上げ、霞が関ナレッジスクエアのご協力を得て、河瀬直美監督が編集した「3.11 A sense of home films」と清水理恵さんのフルート演奏に、私たちの想いを託すことにしました。固定的な考え方や行動に縛られ、また自らの想いを表現することが乏しい、私たちの多くは、今、柔軟な思考と行動力をもつ方々を支援し、特殊の脳(感性)をもつ人たちが細だす音楽、映像、言葉にその思いを託すことしかできませんが、その収益をもって、より行動力のある、柔軟な発想力のある方々に、「私たちの想い」今回託します。しかし、これを機会に、今度は私たちが、被災地への長期的に持続可能な支援を考え、その担い手として実行して行きたいと考えております。ご賛同いただければ幸いです。

桃井隆



霞が関
ナレッジ
スクエア

3.11から継続的な活動の輪が広がる一方で、時の流れとともに風化していく気配が漂っていることも事実です。やがて1年を迎えるにあたって、KK²として何かできることはないかと考えていた矢先に上映会のお話をいただきました。

『3.11 A Sense of Home Films』を通して世界で活躍している監督たちがつむぐ3.11へのメッセージを伝える場を提供し、微力ながらお役に立てればと思っております。是非たくさんの方々にお願いいたします。3.11にあらためて思いを寄せ、そしてこれからの未来に思いをはせ、『3.11私(たち)にできることを考える会』の名の通り、自分自身にできることを考える場となれば幸いです。

久保田了司

ビクトル・エリセ (スペイン) “アナ、3分”

2011年8月6日。芝居が始まる前、舞台裏の控え室にいる女優。衣装とメイクは古典劇登場人物風。そこにアナウンスがかかる、“アナ、3分”と。それは彼女が舞台上立つまでに残された時間。女優は座ってノートパソコンの画面を見つめる。



そしてかかってきたビデオチャットに答え、まるでモノローグを始めたように話し続ける。3月11日に日本を襲った大地震について語り始め、その後押し寄せてきた津波のこと、そしてそれらがどのような結果を招いたか。

桃井かおり (日本) 余心



部屋で一人、ビデオメッセージを撮っていた女を激しい揺れが襲った。突然の日常の分断。時間差で、TVから現実が報道され始める数秒間に、女はたまたま恋しい人に気づく。

アリエル・ロッター (アルゼンチン) “FUTURE HOUSE”



6人の子供達、ある週末。ブエノスアイレスの郊外にたたずむ家。

パティ・スミス (アメリカ)

2年前に彼女の半生を描いた映画『ドリーム・オブ・ライフ』の日本での上映に携わり、以来、友人関係にあるパティ・スミス本人に、やはり友人である河瀬監督から今回の企画の直接の呼びかけをお願いし、代表曲『ピープル・ハブ・ザ・パワー』のポエトリー・リーディングを依頼した。



『ピープル〜』は、世の中の弱い立場の者たちすべてに向けた彼女からの祈りのメッセージである。そして日本語字幕については、同じく私の友人である加瀬亮さんに担当いただいた。やはり彼にも魂の言葉を紡いでもらい、極めて私的な環境でこの作品は完成された。この一期一会な機会を与えてくれたなら国際映画祭に対し、パティに代わって感謝をしたいと思う。プロデューサー / 石毛栄典(トランスフォーマー)

河瀬直美 (日本) “HOME”

少女はその瞬間を生きている。生かされている。風の音、光。それらは記憶、もしくは記録。母は、老いてその命を終えようとしているのか。子は生まれ、歳を重ね、無常にも過ぎ去る刻。変わらぬ「家」という空間の中で「光」と出会うひと、びと。その歓喜。



レスリー・キー (シンガポール) 希望の灯り

日本が3月11日の地震に襲われたその夕方、私は日本全体が奈落と絶望に支配されたのを見ました。恐れ、混乱、不安と悲しみに覆われた日々は続き、あらゆるTVやメディアから伝えられる悲観的なニュースを見ながら私は無力感に襲われていたように思います。



私はあの時に感じた、そして今でも現実と直面して言葉を無くしてしまうこの感覚を、一生忘れないでしょう。けれど、私たちが生まれそしていつかは去っていくという事以外は、人生はいつも予測し得ないものなのです。故に、私はこの短編の中にシンプルなメッセージを込めました。闇がやってきた時、私たちは強くあり決して信じる事をやめてはいけません。私たちが人生の素晴らしさを示し、それを強く信じていれば、やがて希望の光は灯るのだ、という事を。

モハメド・ナジブ・ラザク (マレーシア)

今ここにいる幼い息子。幼い頃、かつてここにいた自分。息子が今見ている家。自分の子供時代の、色褪せた思い出の中の家。



西中 拓史 (日本) “Yayoi-March-”

散らかった室内を片付けながら、弥生は携帯電話を操作している。けれど、電話は繋がらない。そんな時、テレビから流れた映像を見て、弥生は驚愕し走りだす。



[参加監督]

ビクトル・エリセ / Victor Erice: スペイン 河瀬直美: 日本 アピチャップン・ウィーラセタクン / Apichatpong Weerasethakul: タイ ジャ・ジャンク / Jia Zhangke (賈樟柯): 中国 桃井かおり: 日本 レスリー・キー / Leslie Kee: シンガポール イサキ・ラクエスタ / Isaki Lacuesta: スペイン ポン・ジュノ / Bong Joon Ho: 韓国 チャオ・イエ / Zhao Ye (趙暉): 中国 山崎都世子: 日本 ペドロ・ゴンザレス・ルビオ / Pedro Gonzalez Rubio: メキシコ アリエル・ロッター / Ariel Rotter: アルゼンチン ナジブ・ラザク / Naguib Razak: マレーシア ウィット・ボンニミット (通称: タム君) / Wisut Ponnimit: タイ ソー・ヨン・キム / So Yong Kim: 韓国 / アメリカ ジョナス・メカス / Jonas Mekas: リトアニア カトリーヌ・カドゥ / Catherine Cadou: フランス スティーブン・セプリング / Steven Sebring: アメリカ パティ・スミス / Patti Smith: アメリカ モハメド・ナジブ・ラザク / Mohd Naguib Razak: マレーシア 西中拓史: 日本 百々俊二: 日本 想田和弘: 日本

実施要項

日時	3/9 (金) [開場] 18:00 [上映会] 18:30~20:15 (上映開始 19:00) [交流会] 20:30~21:30 3/10 (土) [開場] 14:00 [上映会] 14:30~16:15 (上映開始 15:00) [交流会] 16:30~17:30
参加費	[上映会のみ] KK ² メンバー / 一般 2,000円 [上映会+交流会] KK ² メンバー / 一般 4,000円
定員	[上映会] 100名 [交流会] 50名
申込方法	震が関ナレッジスクエアWebサイトからお申込みください。 Webサイト → http://www.kk2.ne.jp ※お申込みには無料Web会員への登録が必要になります。
主催	3.11 私(たち)にできることを考える会
共催	震が関ナレッジスクエア (KK2)
後援	国連の友 Asia-Pacific 一般財団法人マザーズハート財団
お問合せ	震が関ナレッジスクエア事務局 担当 河合 電話: 03-3288-1921 FAX: 03-5157-9225

開催会場

震が関ナレッジスクエア

〒100-0013 東京都千代田区震が関3-2-1
震が関コモンゲート 西館3階



銀座線

「虎ノ門駅」5番、11番出口より徒歩1分
丸ノ内線、千代田線、日比谷線
「震が関駅」A13番出口より徒歩4分